

芝山みよか記念教育講演

エステティックのヒヤリハット ～健康被害ゼロを目指す皮膚の知識～

古川 福実

和歌山県立医科大学皮膚科学教室教授



ヒヤリハットとは、ヒヤリとしたが事故にはつながらずよかったという事例のことで、ハインリッヒの法則「重大事故1件の陰に29件の軽度事故と、300件のヒヤリハットが存在する」に基づいています。医療や作業現場においてヒヤリとした事例を収集し対策を取ることで、重大事故の防止に役立てる取り組みがされています。

現在、エステティックにおける健康被害に関する消費者相談は、独立行政法人国民生活センターに年間600件～700件報告されています。金銭トラブルなどを含めたエステティック全体の相談件数が減少する傾向にあるなか健康被害の相談件数は横ばいになっています。

現在、厚生労働科学研究費の研究により国民生活センターのデータ収集や皮膚科医師へのアンケート調査等による健康被害事例の収集、エステティック施術の安全性の検討により健康被害の原因究明を行っています。その結果、現在までにわかっている健康被害の原因は、被施術者に物品を落とすなどの施術者のケアレスミス、施術があらかじめ決められた方法で行われていない（オーバートリートメント）、アレルギーなど被施術者側に問題がある、などではないかと考えています。

エステティックは、きれいになりたいというニーズを背景に20歳代を中心に支持され市場が拡大してきました。その後、高齢化社会、ストレス社会など社会環境が変化し、消費者のニーズがリラクゼーションを求めるよう変化してきているような印象をうけます。今後エステティックが発展していくためには、消費者のニーズを的確につかみサービスのオプションを変化させると同時に「エステティックは安全である」ということを徹底し信頼性を向上させる必要があります。医療機関では、ヒヤリとしたらヒヤリとした理由をよく検討し、改善策を実施、全てのスタッフが共有することで重大事故を防止しています。

今回の講演では、厚生労働科学研究費の成果を中心に「エステティックのヒヤリ」事例を考えていきます。

略 歴

昭和53年03月	京都大学医学部医学科卒業	61年01月	米国コロラド大学医学部皮膚科
53年04月	京都大学医学部附属病院皮膚科 入局		Immunodermatology Fellowと して出張
54年10月	大阪赤十字病院皮膚科勤務	63年08月	京都大学医学部皮膚科講師
55年04月	京都大学大学院医学研究科入学	平成05年04月	浜松医科大学医学部皮膚科助教授
57年04月	京都大学医学部病理学教室 第二講座助手	11年08月	和歌山県立医科大学皮膚科教授 現在に至る

この間、副学長一期、副病院長二期、産官学連携推進本部長三期、教育研究審議会委員三期

学会関係役職	理事長:日本皮膚アレルギー学会理事長(平成15年～平成19年) 日本美容皮膚科学会理事長(平成20年～平成23年) 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会(平成23年度～平成25年)
学会会頭(長)	第23回 日本美容皮膚科学会(平成17年9月3、4日) 第114回 日本皮膚科学会総会(平成27年5月29-31日)